

第362回 昭和大学学生会例会（アーツ・アンド・サイエンス部会主催）

日時 2020年2月18日（火） 13:00～16:35

場所 昭和大学富士吉田校舎第2講堂

開会の挨拶

富士吉田教育部長

倉田 知光

1. 植生を活かした景観整備計画

～五感で楽しむ自然教育園～

¹⁾ 昭和大学富士吉田教育部

²⁾ 昭和大学

猪俣 瞳子¹⁾, 萩原 康夫¹⁾,

有澤 岳¹⁾, 平井 康昭¹⁾,

久光 正²⁾

2012年に開園した昭和大学富士吉田自然教育園（以降、自然教育園）は、富士吉田校舎北側の山林の中にある約18,930m²の教育施設で、学生が自然と触れあえる緑地・畑、さらにバーベキュー場なども整備されている。開園以降、主として畑での栽培・収穫体験やバーベキュー場として利用されているが、一方で人が入りにくいために依然活用されていない緑地が多い。2018年度から開始した自然教育園造園工事計画は、利用する学生が年間を通して五感で楽しめる整備を目指したもので、レクリエーションエリアのさらなる拡張よりも自生の植物を活かした植生の多様性に光を当て、調和性、統一性、親近性という観点から自然教育園全体の総合評価の向上を図るものである。設計における基軸は、自然教育園全体を、畑やバーベキュー場を含めた「レクリエーションエリア」および、この地域に自生する植物を活かした「自然エリア」に大きく分けることである。その2つのエリアは目隠し効果を持つ高木や低木を組み合わせた境界により明確に区分し、各エリア内は調和性が維持されたゾーンに分割される。特に「自然エリア」は、下草やコケ類等を観察する湿潤地ゾーン、自生の高木・低木からなる雑木

林ゾーン、そして両ゾーンの間には存在する高木に囲まれた日向ゾーンから構成され、またそれらをつなぐ園路の作成によって、季節ごとの多様な植生、土壌や樹木の匂い、そして目に入る景色の変化が楽しめるものとなっている。

2. 精神領域の作業療法における反転授業が学生にもたらした専門職としての気づき

¹⁾ 昭和大学保健医療学部作業療法学科

²⁾ 昭和大学歯学部口腔解剖学講座

³⁾ 昭和大学保健医療学部看護学科

古賀 誠¹⁾, 作田 浩行¹⁾,

馬谷原光織²⁾, 鈴木 久義¹⁾,

増山英理子¹⁾, 下司 映一³⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

3. 呼吸・循環応答とうつ・不安・不眠の程度とモノアミン神経関連遺伝子の連関 第2報

¹⁾ 昭和大学富士吉田教育部

²⁾ 昭和大学医学部薬理学講座（医科薬理学部門）

³⁾ 昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座

金丸みつ子¹⁾, 長谷川真紀子¹⁾,

松永 雅美¹⁾, 佐野 佳弘¹⁾,

萩原 康夫¹⁾, 小山田英人²⁾,

刑部慶太郎¹⁾, 倉田 知光¹⁾,

稲垣 昌博¹⁾, 大幡 久之¹⁾,

小林 如乃³⁾

【発表内容掲載論文】

投稿中または投稿予定

4. ヒト由来の生体ガス試料の赤外吸収スペクトル測定と健康・運動状態を示す情報の探索

—生体由来試料の測定簡易化と測定結果のデータベース化の試み—

昭和大学富士吉田教育部

本多 英彦, 弓桁 亮介,
山内 里紗, 堀川 浩之,
山本 雅人, 稲垣 昌博

人の呼気は多くの水（水蒸気）と二酸化炭素を含む。運動等により代謝が活発になるとその量は増大し、その他の微量分子を伴って体外に放出される。したがって、呼気は健康・運動状態を反映する生体試料である。しかし、水や二酸化炭素の量に比べ、特徴的な有機分子の量は非常に少ない。また、その量に個人差も大きい。そのため、多量にデータを集めて集団データとして扱い、有意差を確かめる必要がある。本演題では、多量な呼気データを効率よく測定装置に導入するオートサンプラーの構築と測定したデータを処理するシステムについて報告する。呼気に含まれる成分の検出は高感度赤外分光計（FTIR）を用いる。赤外線を気体試料に当てることで、赤外線の吸収量から試料内に含まれる気体の特徴を調べることができる。FTIR に適したオートサンプラーは市販されておらず、ガスクロマトグラフィー用の部品を改良して構築した。本測定では気体パス内を陰圧にする必要があり、加圧を基本とするガスクロマトグラフィー用の装置を真空に対応できるように調整した。また、データ処理はグラフィックチップ（GPU と称される）を活用することで、GPU を使用しないコンピュータでは計算時間がかかり過ぎて実用的でない処理まで可能とした。GPU を用いるデータ処理を GPGPU と呼ぶが、これは近年盛んな AI 研究で必要な基礎技術であり、今後の科学研究でも重要視される技術である。

5. 偽書ゆえの価値～『パパラギ』について

昭和大学富士吉田教育部

田中 周一

第一次世界大戦当時のヨーロッパを初めて見分し、そこでの体験を故郷の若者たちに語った記録と

される西サモアの酋長ツイアビによる『パパラギ』は、今日、一般に偽書とみなされる。こうした見方は、ドイツの言語学者ゼンフト（Günter Senft）が 1999 年に著した“WEIRD PAPALAGI AND A FAKE SAMON CHIEF: A FOOTNOTE TO THE NOBLE SAVAGE MYTH”の中で偽書としたことにその端を発する。ツイアビの言葉をドイツ語に翻訳し 1920 年に出版した編者ショイルマン（Erich Scheurmann）が実際には内容そのものも創作したとするこの見解を受容しつつ、そのうえで本書は独自の価値を有するものと論者は考える。

本書が偽書であるとするならば、そこに綴られている言葉はすべて、その時代のドイツ人であるショイルマンによる現代文明批判とみなすことができる。この事実は、ドイツの詩人ヘルダーリン（Friedrich Hölderlin）の代表作である『ヒュペリオン』と重ね合わせるとき、重要な意義をもち始める。

『ヒュペリオン』は、ギリシア人の青年ヒュペリオンが友人であるベラルミンに送った書簡という形式で綴られる小説であるが、とりわけ有名なのが、小説第二部で語られる、いわゆるドイツ批判である。

ここに認められるのは、現代ドイツ（当時の）の作家であるヘルダーリンが、同時代のギリシア人であるヒュペリオンの言葉という衣服をまとい、現代の祖国を激烈に批判した小説という全体の枠組みである。そしてこの枠組みこそ、偽書としての『パパラギ』の語りの枠組みと重なり合うものである。

6. 医学英語教育のための Can-do list 作成（パイロット版）

昭和大学富士吉田教育部英語科

遠藤 雪枝, 高橋 留美,
高橋 寛

本学では学生をグローバルスタンダードに適合した医療人として育成することを目標としており、多様な価値観と文化背景をもった人々とコミュニケーションをとりながら、国際的に活躍できる能力のある医師の育成が目標であることは、各学部のディプロマポリシーにも明記されている。これらのことを踏まえて、2018 年度から医学英語教育を医学部初

年次より導入している。具体的には、医療というコンテキストにおいて英語でコミュニケーションが行えるようになるために、英語による医療面接の練習、Oral presentation の練習、および Academic writing の実施を、初年次から上級学年までの一貫した医学英語教育の中心に据えるべきであると考えている。

本研究は、富士吉田教育部の共通研究費を受託したものであり、医学部が掲げるコンピテンシー（国際性）を基に、各学年での科目ごとの教育内容やそれぞれの達成目標を決め、初年次から上級学年まで

の医学英語教育の Can-do list を作成し、それに基づいて行った学習成果を記録するためのポートフォリオの作成を行うことを目的とする。その際、研究と臨床の両側面から、学生にどのようなスキルを習得させることが必要かを慎重に考えていく。

今年度は、昨年度実施した「医学英語教育のための Can-do list の作成—本学医学部における英語教育に関するニーズ調査」の結果と考察を基に、パイロット的 Can-do list の作成を行い、医学部 1 年次に自身の評価をしてもらう。本発表では、その結果と考察を提示する。